

「高次脳機能障害者」の 就労 3人の事例

職場
レポート

EMPLOYMENT
REPORT

(文) 清原れい子 (写真) 小山博孝

—JFEアップル西日本株式会社 倉敷事業所—
—島村楽器株式会社—
—株式会社ハタフラワー—

高次脳機能障害。最近よく聞く言葉だ。交通事故や脳卒中、脳梗塞（こうそく）などの後遺症で、外見上は障害があるように見えなくても、脳が損傷を受けたこ

JFEアップル西日本 株式会社

倉敷事業所
〒712-8074
岡山県倉敷市水島川崎通1丁目
TEL 086-447-3295
FAX 086-447-3296



とで、記憶障害、注意障害などが残る。働く上での配慮やサポートが必要となるが、適切な支援があれば、職場復帰が可能だ。いつ交通事故に遭うかもしれない



島村楽器株式会社

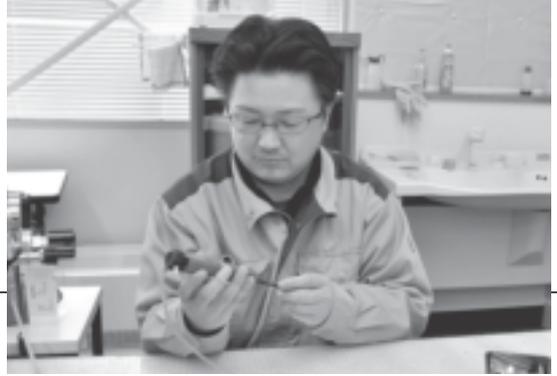
本社
〒132-0035
東京都江戸川区平井6-37-3
TEL 03-3613-4115
FAX 03-3613-4117

し、脳卒中で倒れるかもしれない。高次脳機能障害になる可能性はひとごとではない。今回は、高次脳機能障害の人が働く3カ所の職場を訪ねた。

株式会社ハタフラワー

〒355-0022
埼玉県東松山市御茶山町4-4
TEL 0493-25-2266
FAX 0493-25-2265





JFEアップル西日本倉敷事業所、浅海真一さん（41）。
ガス検知器の検査を担当している

● もやもや病を発症後、転職
● JFEアップル西日本倉敷事業所

「JFEアップル西日本株式会社」はJFEの特例子会社で、福山市と倉敷市に事業所がある。浅海真一さん（41）が勤務する倉敷事業所には17名の障害者が働く。主な業務は、パソコンのデータ入力とガス検知器の検査など。業務課長の原田精一さんと、就労支援にかかわった国立吉備高原職業リハビリテーションセンター（吉備リハ）の職業適応指導員、今村由美子さんにお話をうかがう。

浅海さんは20代半ばで、もやもや病を発症した。もやもや病とは、脳内の動脈の狭さくや閉塞で悪くなった血流を補うように周囲に細かな血管ができ、その状態がたばこの煙のように見えるところから、この病名がついた。もやもや病で脳梗塞になる人もいる。

愛媛県新居浜市でテレビ・ビデオの修理会社に勤めていたある日、昼食をとっ



JFEアップル西日本
原田精一業務課長

ていると突然気分が悪くなり、意識を失った。すぐ手術して3カ月入院。退院後、職場復帰した。

「何の前触れもなく、当時は病名もわかりませんでした。意識が回復すると、相手の顔は覚えていても名前が出てこない。できていたことができない。勉強しても覚えられない。それでも電気の修理の仕事が好きでしたから、どうにか仕事を続けていました」

難なくこなしていた仕事に時間がかかり、ミスを責められ、つらい日々。34歳のときに退社して、故郷の宇和島に帰った。心配した姉の勧めで愛媛障害者職業センターを訪れ、障害者職業総合センター（千葉県）で高次脳機能障害者を対象とした短期プログラムの受講を経て、05年に吉備リハに入所した。

「本人の意思と関係なく、姉につれていかれたのですが、就職するところはどこにもないと、やる気はありませんでした。今も、ものを覚えられないのがすごくつらいんです」

そのとき、かわった1人が今村さんだ。「高次脳機能障害によって以前に比べ、いろいろなお話がしくくなり『バカになってもうた』とよく落ち込んでいました。訓練は、午前中に高次脳機能障害



浅海さんと話す国立吉備高原職業リハビリテーションセンター、今村由美子職業適応指導員

の補完手段獲得のための認知スキルトレーニングを行い、午後からは主にパソコンの訓練等をするのですが、ご本人はやつても無駄だと自暴自棄になっていました。『頑張れば大丈夫』と励ますとお落ち込みますから、職員一回でできたことをフィードバックすることで、自信を持ってもらうようにしていました」

その年の秋、就職面接に行くことになった。「会社に受け入れてもらえそうだからって、表情が変わりましたね。もう働けないのだという思いが、働けるかもしれない、働けると変わってきたのが大きかったですね」

07年1月、職場実習後、JFEアップルに就職が決まった。



浅海さんの仕事ぶりを見守る
JFEアップル西日本、原田課長と今村職業適応指導員



島村楽器津田沼バルコ店（千葉県）で働く金城大介さん（24）

● 島村楽器
バイク事故の後、就職

62年創業の「島村楽器株式会社」は、音楽教室やイベントなどを通じて「音楽を楽しむライフスタイル」を提案する日本最大の楽器専門店。全国に132拠点ある。

金城大介さん（24）は高卒後アルバイトをしていて、20歳の誕生日を迎えた直後、バイク事故を起こした。入院・リハ



内田聡店長

ビリを経て配送の仕事に就いたが、記憶障害があるのでミスが出てしまい、やむなく退職。再就職のため、08年5月に千葉障害者職業センターに相談。メモの取り方などを工夫し、6月からトライアル雇用を行い、ジョブコーチの支援を受けて、島村楽器津田沼バルコ店に就職した。「高校3年のとき、この道1本隔てた島村楽器の音楽教室でドラムを習っていました。好きなことに関係する仕事なので、就職が決まったときはうれしかったです。配送の仕事の経験があったので、仕事をする厳しさはわかっていました」

本社管理部総務人事課の太田ちはるさんは、受け入れ店舗との協力体制を考えた。「スタッフ全員に会社の方針、目的と本人の業務内容を理解してもらおうように努めました。現場に向いて本人の障害を確認して店長と共有すること、また障害を理解したうえで業務を進めることが大切だと思います。担当者を1人決めて、ジョブコーチのアドバイスをいただきました」

がら仕事を教え、覚えてもらいました。販売店ですので、お客様との対応が一番不安でしたね」

店内にはギター、ドラムなどの楽器がいっぱい。来店した人たちが試している。店長の内田聡さんが気をつけたこと。

「障害をわからないと、一緒に働いているスタッフもストレスになりますので、障害について説明して、お客様からお問い合わせがあった場合、金城さんから引き継ぎをされたら気持ちよく対応してくださいと話しました。できることとできないことを明確にして、できることを増やしていきました」



島村楽器本社、立田眞治管理部執行役員と総務人事課、太田ちはるさん

WORKSHOP REPORT

パソコンで葬祭用生花の立て札の依頼主名を入力、印刷を担当する大家直人さん(41)



●脳梗塞から職場復帰 ハタフラワー

「株式会社ハタフラワー」は冠婚葬祭用の生花を中心に扱い、4店舗を展開している。東松山店で働く大家直人さん(41)は11年前に入社。車の運転が大好きで、仕事に駆け回っていた33歳のとき、家族旅行の車中で脳梗塞で倒れた。半年間のリハビリ中にパソコンを覚え、障害者職業総合センターで日常生活訓練などをして、約2年後に復職した。

「目がチカチカすることはありましたが、血圧も高くなかったので、倒れたときはびっくりしました。最初は、わかっているつもりでも切符を買うこともできなくて、初歩的なことから練習しました。社長から『こいよ』というお話をいただいて、本当にうれしかったです」

東松山店では事務、配送、製作の人たち20人が働く。店長の山越光昭さんは、復職が決まったとき、誰よりも喜んでく



ハタフラワー、秦和道社長

れた。

「配達や現場で作業をしてきた仲間ですから、また一緒に働けるとうれしく思いました。左半身がマヒしていますので、書類は右側に置くなど、効率よく作業できる体制を考えました」

以前はみんなで行っていた葬祭用生花の立て札の依頼主名をパソコンで入力・印刷する仕事を大家さんの担当にした。埼玉障害者職業センターのジョブコーチのアドバイスを受けながら、作業は三重チェック体制を敷き、仕事に集中しすぎて休憩をとることを忘れないようにと目覚まし時計を用意した。

「一生懸命作業を続けるので、最初は働きすぎないように目覚まし時計をセットして、『お昼だよ』とか、『もう時間だな』とか声をかけました。チェック体制を充実させたことで、作業全体の質の向上にもつながりました。彼は、新しく入った人に『名札を持ったか』とか声をかけてくれますし、配達



ハタフラワー
山越光昭東松山店店長

先の地図も調べてくれますので、助かっていますね。明るく元気ですから、私たちも気兼ねなく、普通に話しています」
大家さんはアルバイト勤務で、月・水は9時から12時、木・金は9時から14時まで。月・火・水・土はリハビリに励み、休日もウォーキングをする。初めは両親が送迎していたが、今は電車とバスを乗り継いで通勤している。

「大変なのは、視野が左半分見えないことです。左半身がマヒしていますが、杖をついていないので普通の人だと思われて、通勤中に変な目で見られるのがつらいですね。階段は気をつけて上り下りしています。自分が考えていることとしゃべっていることが一致しなかったり、遅れてわかったりするものが、むずかしいところですよ」



ハタフラワー東松山店

JFEアップル西日本倉敷事業所

会社Ⅱ対人関係、ストレスに配慮
本人Ⅱお天気が崩れると体調がつかない

原田さんは、パソコンのデータ入力、ガス検知器の検査の実習などの結果を見て採用を決めた。

「もやもや病と言われても知識がありませんでしたが、外見は障害があるようには見えません。ガス検知器の検査と寮に入って生活面も含めて訓練して受け入れましたが、働き始めてから障害がわかってきました」

ガス検知器には複数の機種があり、検査方法が異なる機種がくるとつまづいた。

「新しい機種の検査の手順が覚えられなかったので、吉備リハに頼み、指導員と一緒にやってもらうと、1人でできるようになりました。今は『手順を書いて覚える』という方法がわかりましたから、新しい機種がきたら会社で手順書を作っています。入社当時に比べて、作業効率は倍以上に向上していますね」

浅海さんが苦手なのは対人関係と、ストレスをためてしまうこと。その解消のために、会社として配慮してきた。

「同じ部屋で働いている発達障害の人はテンションが高く、集中を妨げられると感情のコントロールができず、大声を出すこともありました。ガス検査の手が空いたときは別の部屋でパソコンの仕事してもらっています。また彼は管理されていると思っています、

島村楽器

会社Ⅱ新たな仕事へ前向きに
本人Ⅱ大好きな楽器に囲まれて充実

金城さんは、店内とスタジオのクリンリネス（清掃と整理整頓）、スコア（楽譜）の整理から始め、月1回のドラムのヘッドの張り替え、商品の品出しなど、仕事を増やしてきた。勤務時間は9時30分から17時まで。

「お店全体の美化、清掃がメインです。店舗とスタジオの隅々まできれいにして、スコアが乱れていたなら整理、お客様が気持ちよく買い物ができるようにしています。スタッフは僕のことをわかってくれて、優しく接していただいています」

今もドラムの教室に通い、電子ピアノの練習も始めた。好きな楽器に囲まれて仕事ができるのはラッキーだと思う。

「お客様から聞かれたとき、答えられることはお答えして、自分で答えられないことは他のスタッフにお願いしています。仕事は続けていきたいです。もっと知識を増やして、最終的な目標は接客販売をすることです」

内田店長は仕事ぶりを評価している。

「スコアの整理整頓とんやスタジオ清掃などは、スタッフの手がふだん届きにくいところですので大変助かっています。スコアを常にきれいにしています。上げの向上に貢献してくれていますね。スタジオが4つあり、バンドさん

ハタフラワー

会社Ⅱ仲間だから復職は当たり前
本人Ⅱ仕事も徐々に増やしたい

91年に26歳で起業した社長の秦和道さんは、大家さんが倒れたとき、山越さんたちと「ぜひ戻ってきて」とお見舞いに行った。

「突発的に入る注文をチームワークで成し遂げていく仕事ですので、スポーツの団体競技のように仲間同士の絆（ぎずな）が深まっています。初めて聞く障害で、家族からは『退職を』という申し出がありました。よそで働くのは忍びない、『働いている人のための会社とは』と考えたとき、復帰は当たり前、第1歩が大事だとチャレンジすることにしました」

従業員は45名。大家さんのほかに障害者はいない。復職にあたり、心配なことは多々あった。

「階段は狭く、職場環境がよくないことと、今まで体を動かしていたのに事務職的な仕事をやらざるを得ないこと。彼ができてそうな能力、これから伸びそうな能力がわかりませんでした。が、ジョブコーチに『こういうこともできそうですよ』と教えられました」

現在、パソコンでの仕事を任せられるようになった。

「本人が努力して、シールのはがしや札と棒を釘で打ち付ける仕事も、工夫してできるようになりました。リハビリを頑張りたいというので、今はアルバイトですが、『いつでもフルタイ

取材を終えて

3カ所の事業所では、ジョブコーチ支援などを通して高次脳機能障害について理解を深め、職場で受け入れていった。就労支援機関を活用して、高次脳機能障害の人たちの雇用をぜひ進めてほしい。そのための情報は、当機構HPから検索いただくか、地域障害者職業センターまで。

それがストレスになりがちです。ですから、社内レクリエーションで発散させるなど、ストレスをためないように工夫しています。最近、大きな声で笑うようになりましたが、それも発散の1つだと思います。4月1日付けで1段階昇格しましたが、『期待している』と本人に話しました」

浅海さんは、帰宅後に調理する大変さを考えて、ふだんはお弁当中心。休日は家で休養しているか、両親に会いに宇和島に車で帰る。

「たまに1人でお酒も飲みに行きます。6月、7月は検査の件数が多いので大変です。会社の人たちが私に合わせてくれていると思いますが、雨が降る前とか雨降りとか、天候に左右されるのが辛いですね。仕事は続けていけそうです」

今村さんは1人暮らしの準備も支援。就職後もメールでの相談や、吉備リハの文化祭などで帰ってきたときに話を聞くなど、サポートを続けている。

「お姉さんがお金や体調面の管理を心配されて、成年後見制度を使っていますが、ご本人は儉約家ですね。ご本人の頭の中だけでなかなか整理が見つからないことも、こちらが紙に書きながらお話を伺ったり、話を全部お聞きした上で客観的な見方をお伝えすると、ご本人が整理しやすいようです。就職してから『お世話になりました』とお礼を言われるようになりました。ご本人の気持ちが変わったのだと思います」

が多く来店されますが、ドラムのヘッドの張り替えも任せています。お店の懇親会にも参加して、チームメンバーとして一緒に働ける環境をめざしています」

高次脳機能障害の人は、金城さんのほか仙台店でも同じような仕事に就いている。

「記憶障害の部分にうまく対応できればと思いましたが、3カ月を過ぎたころから仕事に慣れてきました。クリンリネスは、楽器をきちんと配置するとか、掃除だけではないので、楽しく仕事ができているのではないかと思います。今後は、本人が望んでいる接客など、前向きな話し合いが必要だと思っています」(太田さん)

従業員1700名余。障害者は各店舗で働いている。管理部執行役員の上田真治さんに社の考えを聞いた。

「小売業ですから、ほとんどがお客様さんと接する仕事です。2年ぐらい前から障害者雇用に本格的に取り組み、いろいろチャレンジしているところですが、こういう障害の方は、お店でこういう仕事ができるとか、1人ずつトライアルして、受け入れの感じがよくやくわかってきました。仕事の確保などまだまだ模索していますが、世の中に貢献していきたいですね」



高次脳機能障害について
 国立吉備高原職業リハビリテーションセンター
 職業適応指導員 今村由美子さん
 高次脳機能障害の話をすると、会社の方は『どんな障害なんですか』と聞かれます。高次脳機能障害は損傷する部位によって、障害の現れ方が違います。わかりにくい障害と言われますが、こんな工夫、こんな対応があれば働くことができるとお伝えしていければと思います。

ムで働いていいよ』と話してあります。本人のあきらめない気持ちから、私たちが逆に学ぶことが多いですね」
 大家さんは一字一字を確認しながら、ファックスで送られてきた不明瞭な字は辞書で確かめつつ作業を進めている。
 「脳が理解するのに2倍かかるみたいで疲れが出ますが、仕事をもう少し多くしていきたいと思っています。『元気に明るく』を心がけて、これからもできるかぎり、頑張っていこうと思います」
 社長をはじめ、若い人たちの対応がソフト。社内の雰囲気やわらかい。
 「若い人たちが多いのですが、やさしい人たちが集まってくれています。彼は障害が出る前もムードメーカーで、必要な人材でした。仕事は、彼にとつてのやりがいプラス生活するためのアイテムの1つだと思います。充実して楽しく、生きがいを持っているように、仕事の幅を広げてあげることが会社の役目かと思っています」(秦社長)